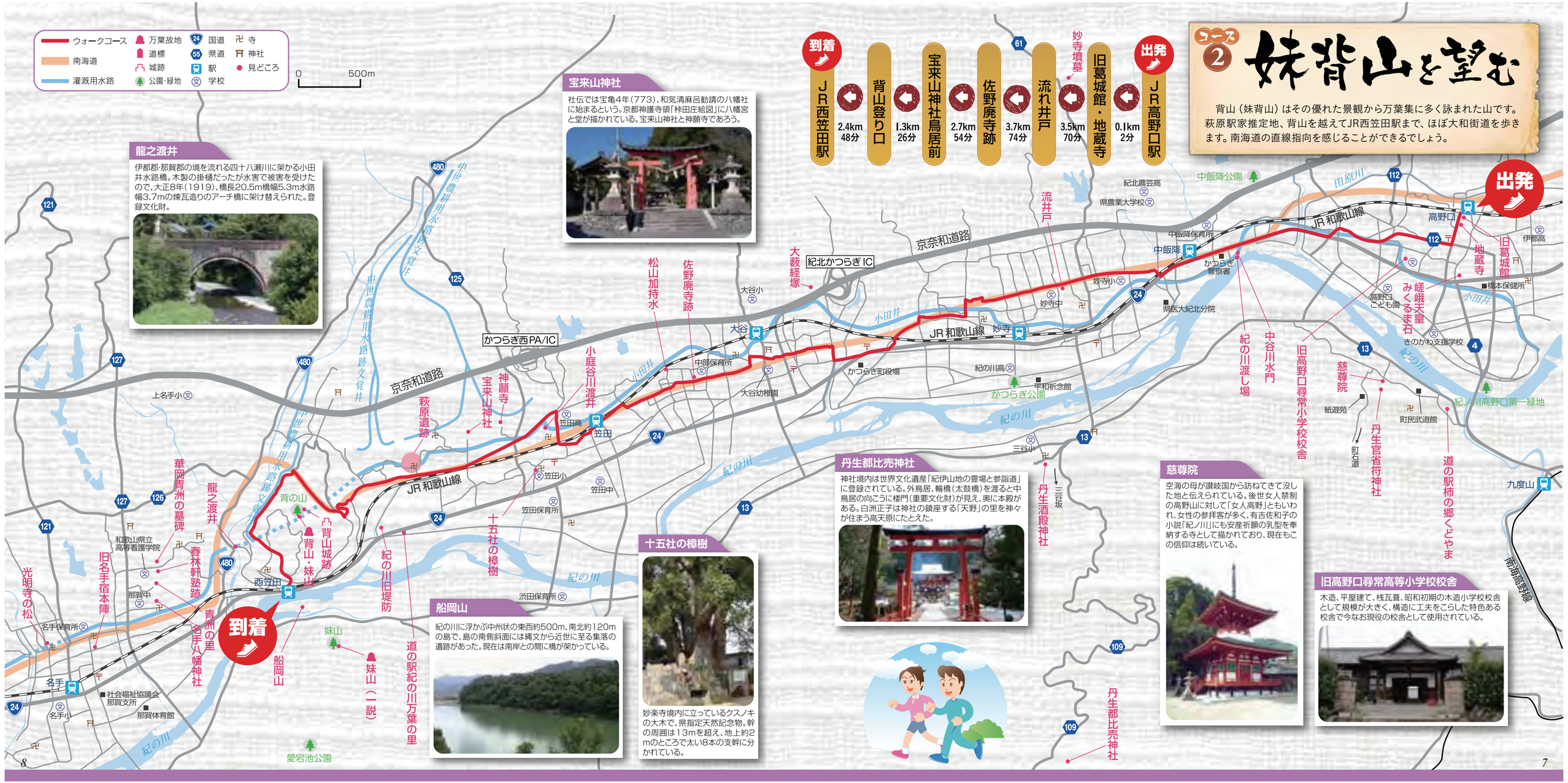
コース2 妹背山を望む

背山（妹背山）はその優れた景観から万葉集に多く詠まれた山です。萩原駅家推定地、背山を越えてJR西笠田駅まで、ほぼ大和街道を歩きます。南海道の直線指向を感じることができるでしょう。

出発 → 旧葛城館・地蔵寺 0.1km 2分 → 妙寺墳墓 → 流れ井戸 3.5km 70分 → 佐野廃寺跡 3.7km 74分 → 宝来山神社鳥居前 2.7km 54分 → 背山登り口 1.3km 26分 → JR西笠田駅 2.4km 48分 → 到着



宝来山神社

社伝では宝亀4年（773）、和気清麻呂勧請の八幡社に始まるという。京都神護寺領「柿田庄絵図」に八幡宮と堂が描かれている。宝来山神社と神願寺であろう。

龍之渡井

伊都郡・那賀郡の境を流れる四十八瀬川に架かる小田井水路橋。木製の掛樋だったが水害で被害を受けたので、大正8年（1919）、橋長20.5m橋幅5.3m水路幅3.7mの煉瓦造りのアーチ橋に架け替えられた。登録文化財。

丹生都比売神社

神社境内は世界文化遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」に登録されている。外鳥居、輪橋（太鼓橋）を渡ると中鳥居の向こうに楼門（重要文化財）が見え、奥に本殿がある。白洲正子は神社の鎮座する「天野」の里を神々が住まう高天原にたとえた。

慈尊院

空海の母が讃岐国から訪ねてきて没した地と伝えられている。後世女人禁制の高野山に対して「女人高野」ともいわれ、女性の参拝客が多く、有吉佐和子の小説「紀ノ川」にも安産祈願の乳型を奉納する寺として描かれており、現在もこの信仰は続いている。

旧高野口尋常小学校校舎

木造、平屋建て、桟瓦葺、昭和初期の木造小学校校舎として規模が大きく、構造に工夫をこらした特色ある校舎で今なお現役の校舎として使用されている。

十五社の樟樹

妙楽寺境内に立っているクスノキの大木で、県指定天然記念物。幹の周囲は13mを超え、地上約2mのところで太い8本の支幹に分かれている。

船岡山

紀の川に浮かぶ中州状の東西約500m、南北約120mの島で、島の南側斜面には縄文から近世に至る集落の遺跡があった。現在は南岸との間に橋が架かっている。

コース2 妹背山を望む

万葉集の背山・妹山

真土山（大和国と紀伊国の国境いの山）を越えて、南海道を25キロほど西に下ると、紀の川の北岸に背山（168㍍）がそびえています。頂上からは、ゆったりと蛇行する紀の川の流れを楽しむことができ、そのすばらしい風景にはしばし時を忘れます。この山には峯が二つあり、この二峯が、背山・妹山であると考えられます。紀の川を挟んで、背山の対岸にある丘陵を妹山とする説も古くからあります。

15首も詠まれ、万葉集に詠まれた山々の中で、第二番目の多さを誇ります。

我妹子に　我が恋ひ行けば
ともしくも　並び居るかも　妹と背山

妹（妻）と背（夫）が仲良く並ぶ山の姿に、都に残してきた妻（恋人）のことを懐かしく想いながら旅を続けたのでした。「ともし」とは羨ましいという意味です。

これやこの　大和にしては　我が恋ふる
紀路にありといふ　名に負ふ背山

この歌の作者は阿閇皇女、後の元明天皇です。おそらく持統天皇の紀伊国行幸（690年）に同行した折の歌です。すでにこの時代から、背山は都でも有名な紀伊国の名所でした。「これやこの」という言葉に、憧れの背山に接した皇女の喜びの気持ちが躍っています。

紀路にこそ　妹山ありといへ
玉くしげ　二上山も　妹こそありけれ

二上山は大和国の西端に鎮座する山です。万葉集では悲劇の皇子・大津皇子が葬られている山として有名です。この山も雄岳・女岳の二つの峰からなる印象深い山容をしています。作者は紀伊国の背山・妹山と二上山を重ね合わせて見ています。

萩原駅家

笠田の集落から宝来山神社前を過ぎ背山に向かう右側に萩原集落があり、このあたりに南海道萩原駅家が置かれたものと考えられ、小字「木戸口」で発掘調査が実施されましたが駅家の跡は明確でありません。萩原集落以外の笠田集落などに萩原駅家を想定する説もあります。南海道駅家は大宝2年（702）に置かれた賀太駅家が初見です。当時は30里（約16km）毎に駅家を配置しており、紀伊国でも都まで駅家が置かれており賀太駅家から30里毎に名草駅家、萩原駅家が置かれたものと見られ距離的には萩原集落付近となります。しかし、萩原駅家は大宝2年には記載がなく、弘仁2年（811）突然、萩原・名草・加太の駅家が廃止されます。都が大和の平城京から山城の平安京へ遷ったのに伴い、南海道のルートが変更されたためと考えられています。

宝来山神社

社伝では光仁天皇宝亀4年（773）に和気清麻呂が八幡神を勧請したのに始まるとし、本社四殿に猿田彦大神・菅原大神・八幡大神・大山祇大神を祀っています。元暦元年（1184）に山城神護寺桙田庄が立券されてからは荘園の鎮守となったようです。神護寺の「桙田庄絵図」を延徳3年（1491）に写したとみられる「紀伊国桙田庄絵図」、また、慶安3年（1650）作成の「賀勢田庄絵図」などが社蔵されています。現本殿四棟は慶長19年（1614）の再建棟札があり絵図とともに重要文化財に指定されています。

宝来山神社

小田井用水

紀の川上流域部、橋本市高野口町小田にある井堰（頭首工）から紀の川北岸を岩出市根来まで流れる約33kmの農業用水路で、受益面積は、伊都郡・那賀郡一帯の約1.000ha以上の農地で県下最大規模。開削は宝永4年(1707)橋本市学文路の庄屋大畑才蔵が紀州藩の事業として開始し第1期工事小田～名手市場、第2期工事名手市場～打田間、第3期工事打田～根来間と順に延長して享保年間の完成。粉河寺境内に治水の神様大畑才蔵翁顕彰碑があります。

文覚井

四十八瀬川（穴伏川）に水源を求め、途中の丘陵鞍部を開削して風呂谷川上流に落とし込み、この谷川を利用して萩原・笠田中・笠田東に至る一ノ井と、移に至る二ノ井、そして高田に至る三ノ井があります。この三つの用水路を合わして文覚井と呼称されています。中世の用水路としては工法的にも注目され県史跡に指定されています。なお、文覚井の水路は宝来山神社所蔵重要文化財（附）慶安三年賀勢田荘絵図に描かれています。なお、文覚上人が葛城修験行所文蔵の滝で文覚井開削を悟ったとの伝承もあります。

藤崎井

紀の川市藤崎井堰（頭首工）から和歌山市山口まで約24kmに及ぶ農業用水路です。大畑才蔵が紀州藩の事業として、元禄9年（1696）から元禄14年(1701)にかけて行った大規模農業用水路工事。受益面積は900ha。この工事により、畑を水田に変え藩財政の建て直しに貢献しました。

頭首工については現在より60mほど上流にあって大型の割石を沈めた上に竹編みの蛇篭を並べたもので、2カ所の船通しと1カ所の魚道がありました。